

## 自然休養林情報

### 無名スギに名前をください

自然休養林白谷雲水峡は、秋から冬への準備中です。遊歩道は、ハリギリやヒメシャラ、ナナカマド等の色付いた落ち葉で、足の踏み場もない程です。

特に、原生林歩道沿いで濃緑色の苔と落葉のコントラストは絶妙で、訪れる人の目を楽しませてくれます。

この歩道では、奉行スギや三本足スギ等の著名スギも見ることができ、屋久島特有の自然を充分満喫できますが、まだまだ見逃せないところも多く、名前の付いていない屋久スギも数本残っています。

そこで、貴重な自然が残る原生林歩道に多くの人が堪能していただくために、中間付近にある「無名スギ」の名前を募集することにしました。

このスギは、切株上に発芽し根を下ろした二代スギで、樹齢は500年未満の若いスギと思われますが、切株を含む胸高周囲は約9.0mあり下から見上げる様は勇壮です。

詳しい募集要領を裏面に掲載しますので、奮ってご応募下さい。



この森林教室は、上屋久町教育委員会の依頼を受け、上屋久町内の小学四・五年生三名と引率者一〇名を対象に、保全センター職員と森林官の計六名が講師となり実施したものです。

甲斐調整官の講話「森林と友だちになろう」の後、二班に分かれて歩道を散策し、植物の特徴や屋久スギと人との関わり等を説明しました。



## 屋久島にはなぜ屋久スギが多いの？

十一月十四日、上屋久町教育委員会主催による「ふるさと森林教室」が白谷雲水峡で開催され、保全センター職員等が中心となり森林教室を実施し、森林の働きや植物の特徴、屋久スギと人との関わり等について説明しました。

久スギが多いの、②屋久スギは何本あるの、③なぜイノシシがいないの等講師泣かせの質問が相次ぎ、児童の関心の高さが伺えました。

### 宇宙からの目で立体的に屋久島を見る

十一月二〇日、パソコンによる立体画像の操作方法についての説明がリモート・センシング技術センター田中総太郎研究部長から保全センター職員に対して行われました。



### 「屋久島における水質調査」がみごと九州林政連絡協議会長賞受賞

十一月十一・十二日、「森林の流域管理システム推進発表大会」が熊本営林局で開催され、保全センターと森林総研九州支所の共同発表課題「屋久島における水質調査について」が、みごと最優秀賞である九州林政連絡協議会長賞を受賞しました。

九州各県の林業担当職員らでつくる九州林政連絡協議会が毎年開催しているものです。水質調査結果については本紙で定期的に報告していましたが、今回平成九年の一年間を通して結果が得られたことから発表されたものです。

発表要旨については、裏面に掲載しますのでご覧下さい。

### 屋久島の植物



茨城県以南・四国・九州に分布し、暖地の海岸や海近くの山地に生える常緑低木。葉は枝先に集まり互生し、葉身は円形で「天狗のうちわ」を思わせ、7〜9個の深い切れ込みを「八つ手」に見立て名がつけられた。晩秋には茎の先に大きな白い花を咲かせ庭木にも良く植えられている。

### 編集後記

平成十年度縄文スギ樹勢回復措置（一回目）が、十一月十八日〜二〇日まで行われた。



登山者や報道関係者が見守るなか、区域測量と土壌の採取及び植生調査を実施し、樹木医の先生方も細心の注意を払いながら作業されていた。

今回の予備調査を通して、終始驚かされたのは報道機関の関心の高さ（TV取材や新聞報道）で、当方も対応にいささか戸惑ってしまった。

これまで、紀元スギや大王スギ等と同じ措置を実施することを本誌で紹介してきたが今回のような騒ぎはなかった。

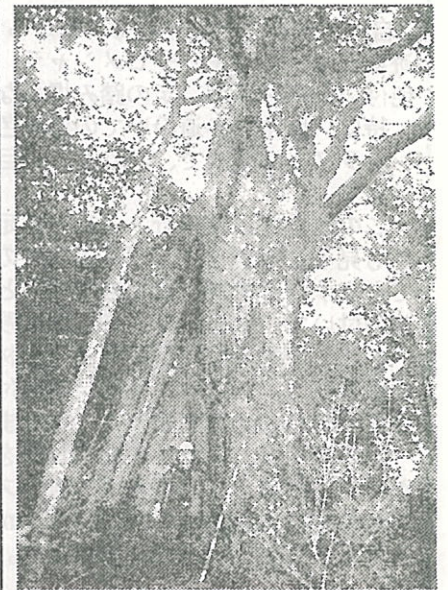
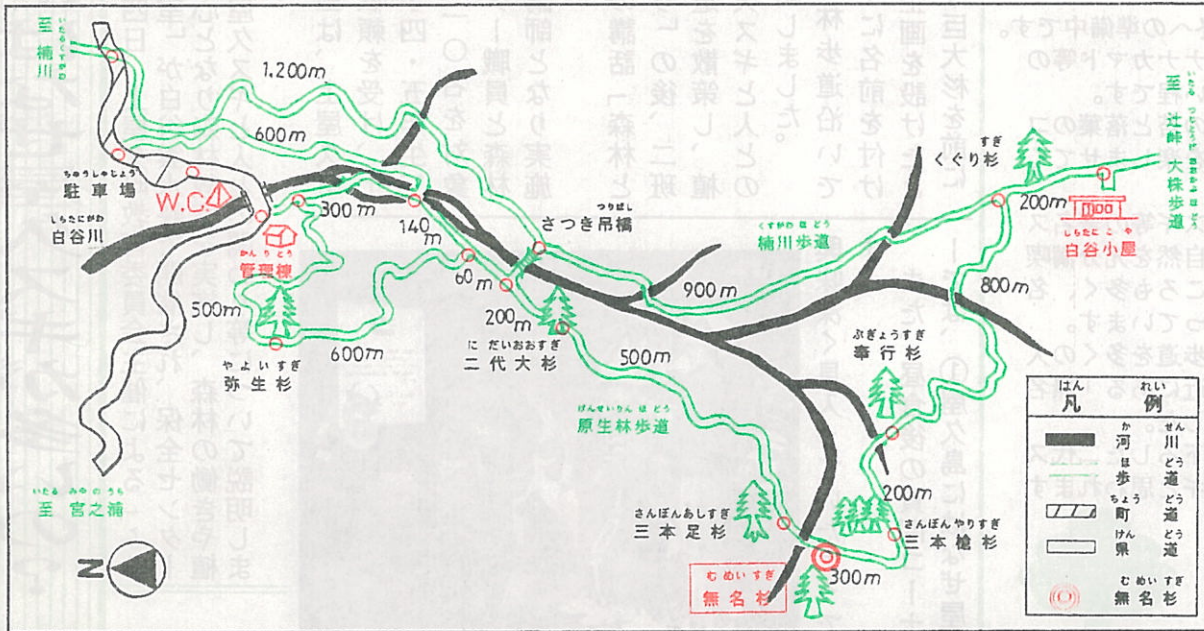
屋久島の象徴とも言うべき縄文スギの偉大さを改めて認識するとともに、事業の成功を切に願うものである。（甲）



# 「無名スギに名前をください」のお知らせ

- ◆応募方法 はがき又はFAXで、住所、氏名、年齢、職業(学年)、電話番号、無名スギの名前を明記の上、下記までにご応募ください。  
〒891-4205 鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦1577-1  
屋久島森林環境保全センター無名スギの名前係
- ◆無名スギの位置 下図のとおり
- ◆締切 平成11年3月31日
- ◆発表 本誌に掲載。(採用された方には、記念品をお送りします。)

●図-無名スギの位置(白谷雲水峡:原生林歩道沿い)



(歩道沿いに勇壮と立つ無名スギ)

## 屋久島における水質調査について

近年、酸性雨(一般にはpH5.6以下の雨)による森林被害等がクローズアップされていますが、豊かな自然環境に恵まれた屋久島でも酸性雨は降っているのでしょうか。

保全センターでは、森林総合研究所九州支所と共同で、屋久島国有林内に林外雨(雨水)、渓流水等12箇所の採水箇所を設定し調査を実施してきました、今回は平成9年の調査結果について報告します。

林外雨4箇所のpH値(グラフー1)は、各採水地点における違いが見られ、pH値は標高が高くなるほど高い値を出していますが、季節変化をしてみるとほぼ同様の季節変化を示しており、冬季に低い値を出しています。

これは、冬季に吹く強い北西風により、九州本土の火山活動由来物質や大陸起源の酸性降下物等が、長距離輸送されて来ていることを示唆しています。

次に、高層湿原を除く渓流水のpH値の季節変化(グラフー2)を見てみると、林外雨に比べて上下動が少なく比較的安定しており、pH値も高い値を出していることから、雨水が土壌を通過する際に洗浄される土壌の酸中和機能(緩衝能)が働いて、渓流水を良い状態に維持していることが解ります。

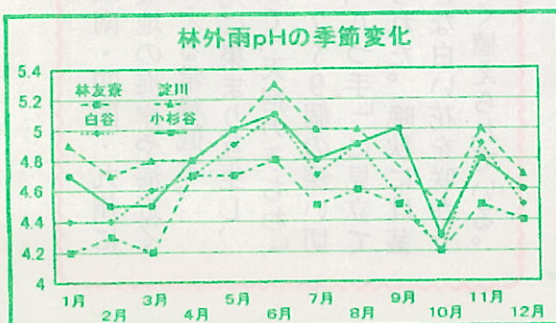
高層湿原のpH値の季節変化(グラフー3)については、外の渓流水よりpH値が低い値を出していますが、これは腐植酸等の影響があるものと思われます。

自然環境に恵まれた屋久島においても、年間を通して酸性雨が降っていること、特に北西風が強く吹く冬季には酸性降下物の影響で、強い酸性の雨が降っていることが解りました。

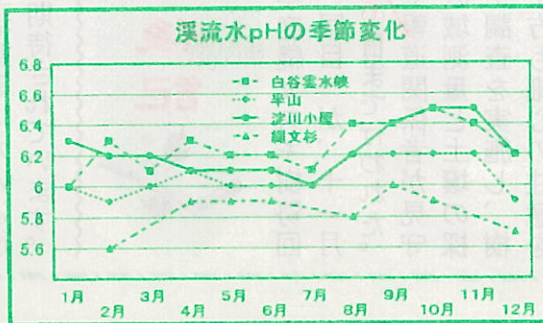
また、渓流水については土壌の酸中和機能により、pH値は高くなり水質が良い状態に保たれていることも解りました。

この調査で、水質の季節変化や、採水箇所による水質特性の違いが解ってきましたが、採水時期によるバラツキもみられるため、これからも継続的なモニタリングを実施していきます。

グラフー1



グラフー2



グラフー3

